

20131106 U30 コミュニケーションスキル研究会／キックオフミーティング議事録
「社会を変える」のはじめかた ～若者が政治に興味を持つためには？～

日 時：2013年11月6日（水）19:30-22:00

場 所：東京／池袋「バー クオーレ」

発表者：横尾俊成さん（NPO法人グリーンバード代表、港区議会議員）

インタビュアー：福田一輝（U30 コミュニケーションスキル研究会会長、大学生）

参加者：参加者 14人（発表者除く）

（大学生、会社員、公共経営コンサルタント、公務員、大学教員、NPO法人理事長、
社会保険労務士、行政書士・司法書士など）

目次

0. 自己紹介

1. 港区議会議員を目指したきっかけ？
2. 政治家になった横尾さんですが、若者がどういう行動をとったら、政治家が振り向いてくれるのでしょうか？（政治家は老人のほうだけを向いているようです）
 - 2-1. 大学生が社会を変えたいと思っても、きっかけがありません。
3. 社会を変えるために何を心かけたら良いのでしょうか？ どのようなコミュニケーションが必要でしょうか？
4. 若者に向けて、社会を変えることについてのメッセージをお願いします。

発表

0. 自己紹介

いままでの経歴ですが、大学院→博報堂→急に思い立って立候補→港区議会議員です。
NPO法人グリーンバードの代表もしています。街のごみ拾いをしています。そして、まちづくりのお手伝いをしています

1. 港区議会議員を目指したきっかけ？

高校生のときはすごく真面目でした。生徒会役員もしていました。しかし、それが実は嫌でした。演じている感じがしていました。周りの期待もありました。そうしないといけないような気がしていました。

大学生となり、ここから遊んでやろうと思い立ちました。金髪にして、毎日、クラブで踊って

いました。が、1年間で飽きました。そこで、留学をすることを決めました。海外にはもっと面白い遊びがあるかもしれないと考えたわけです。TOEICの点数はぎりぎりでしたが、そのころ早稲田大学で創設されたプログラムで留学できることになりました。留学からちょうど帰ってきたときに、911のテロが起きました。友だちの親戚（BBQを一緒にしていたおばさん）が亡くなりました。キーンとききました。しかし、どうしたら良いかわかりませんでした。大学のときに勉強していなかったからです（いま考えると決してそんなことはないのですが）。そこで、勉強しようと大学院に入り、イスラム社会学を勉強しました。また、難民支援協会、ユネスコなど5～6カ所でインターンを行いました。

そして、就活の時期が来ました。当初、NGO、NPOに入りたいと考えました。しかし、自分で出来ることがないと思いとどまりました（いま考えるとそんなことはないのですが）。どこのNGO、NPOも経営規模が小さいのです。どこも経営に汲々としていました。活動は素晴らしいことをされているのですが……。だが、もっと潜在力はあるのではないかと考えました。もっと貢献ができるのではないかと考えました。そこでプロモーション、広報を行って、いろんな人を巻き込めることができないかと考えました。では、どうするか。それが広告代理店への就職となりました。広告という手段、武器を手にしたみたいと考えました。

会社はもともと5年で辞めようと考えていました。当時、ホリエモン（起業）ブームだったこともあります。しかし、仕事の中で、NPOの広告や地球環境の広告などソーシャルな仕事ができているので、辞める気はありませんでした。そのときに、NPO法人グリーンバードを立ち上げました。自分が動く何かをしたいと考えたからです。まずは赤坂の街をきれいしたいとゴミ拾いをはじめました。これが町内会のおじさん、おばあさんとの出会いとなりました。街ってすごく面白い！ 町内会のイベントはけっこう面白いとゴミ拾いをして気付くことができました。「(行政の) お金があるからなんかやろうよ」と声をかけてくれます。そこで、街のプロモーションができるのではないかと考えました。「にいちゃん」が何かやるだけで喜ばれて、実行ができます。

ゴミ拾いをしていたとき、行政に雇われて清掃をしている人に「ここは私が清掃する場所なので、清掃しなくて良いですよ」と言われました。ボランティアで、やりたくてやっている人もいるのに行政は税金をかけてやっています。無償の領域となるのではないかと考えました。どういう（行政の）ボタンが自分たちの仕事につながるかを考えました。公務員になるのも考えましたが、政治家を選択しました。

「とりあえず、やってみよう」です。

2. 政治家になった横尾さんですが、若者がどういう行動をとったら、政治家が振り向いてくれるのでしょうか？（政治家は老人のほうだけを向いているようです）

行政は、老人のためだけを考えているわけではありません。街のためになんとかしたいと考えています。しかし、そう見えるのであれば理由があります。一つには、20代が実際に行政の

人たちと話したことがないことです。行政はコミュニケーションをとりたいと考えています。しかし、20代がどこにいるかわからないのです。どう接したらよいかわからないのです。たとえばよその区ではやっているのうちの区でも銭湯の割引券が欲しいという意見がしつこく来ると、それが世論だと考えてしまいます。ついで、20代とコンタクトがとれません。SNSもありますが、20代は登録してくれません。さらに、20代、30代は行政に関心がないのかもしれませんが。ただし、20代、30代でも子どもができると、子育て施策を調べ始めます。 이슈ーが近付いてきます。そうでもない行政に関心が向かないのです。でも、実は気付いていないだけで、関係することはたくさんあります。政治家と仲良くするメリット？ 生活にどう活かすか？を考える必要があります。

先月新刊『社会を変える』のはじめかた』を出しました。20代に政治にもっと振り向いてもらいたいと思い書きました。しかし、「政治」とは一切書きませんでした。政治というとそれだけで敬遠されるからです。

2-1. 大学生が社会を変えたいと思っても、きっかけがありません。

たとえば、政治に携わっている人としてフローレンスの駒崎さんがいます。社会を変えるために政治、政治家を利用してはいます。制度、仕組み、法律という箱自体がおかしいのではないかと考え、箱を変える必要を感じたときに、社会を変える必要があると考えます。駒崎さんは、病気の子どもを預けたいと考えたが預かってくれるところがなく、病気のたびに仕事を休まなくてはならず、このことから、出産、子育てが敬遠されるという現状に大きな疑問を感じました。そして、フローレンスを立ち上げました。しかし、フローレンスの事業はそもそも社会のシステムとして必要なものではないでしょうか？ その後、厚労省が病児政策を取り入れました。良いことをやっていたらちゃんと取り入れられる社会ではあります。しかし、偶然ではなく、仕組みと取り入れられるようにしていく必要があります。

暮らしている中で、暗黙の了解となっていることでも、それで良いのか？と疑問を感じる事ができるかです。たとえば、就活はたいへんです。でもこれはおれのせいではないのでしょうか？ 新卒採用が少ない、定年退職者が残ることが多くなっているというのは公共の問題ではないか？ 社会の問題、ほんとうはあるが気付いていないだけなのです。また、NPOを立ち上げて済む問題か、制度を変える必要のある問題かを考えることも必要です。

ソーシャル・デザイン、コミュニティ・デザインという言葉が潮流になってきています。しかし、政治という言葉は現れてきません。社会をかえるノウハウが語られてこなかったということです。

3. 社会を変えるために何を心かけたら良いでしょうか？ どのようなコミュニケーションが必要でしょうか？

グリーンバードの場合ですが、道路にゴミがたくさん捨ててある状況に対して、なんとかしたいと考えました。いままでであれば、行政が対応をしたり、ゴミ捨て禁止のポスターなどを掲示していました。しかし、それは素敵なコミュニケーションではない、バッドコミュニケーションです。禁止ではなく、少しずつ伝える必要があります。相手の立場に立って、相手自身が行動を起こそうと考えるメッセージとするべきです。そこで、ポイ捨てしない世の中を作れるとカッコいいと考えました。捨てる人を減らすにはどうしたらよいか、拾っている人たちがカッコいい、目立つようにしたいと考えました。

「一度でも良いからゴミ拾いした人はゴミを捨てなくなるの法則」です。
まずはわいわいみんなでゴミを拾ってみようというところから始めました。

コミュニケーションですが、まずはやること、動くことです。いきなり社会を変えるプランの提案からではあえません。一所懸命にして、結果を見せることからです。町内会のおじさんたちに受け入れられることです。町内会のおじさんたちは若者の様子見をしてくれます。

就活の場合ですが、コミュニケーション能力について面接で力説することが多いようです。しかし、いろいろな人に会うことも大切です。町内会のおじさんたちとのやり取り、経験談を伝えることで証明するべきです。それはどんな小さいことでも良いのです。小さいことでも行動によって語るができます。

4. 若者に向けて、社会を変えることについてのメッセージをお願いします。

私の苦手なことは、30年後の未来を考えていまを設計することです。行き当たりばったりの性格なのです。もともと議員もやりたいと思っていませんでした。選挙のたびに選挙カーをうるさいと感じていました。しかしいま、めちゃくちゃ楽しいです。

だから、「迷ったら全部やる」ということをメッセージとします。

経営コンサルタントとかからは事業を絞れとよく言われます。しかし、絞るの苦手なのです。全部やることで、一つひとつ選択肢をなくしていくことでできます。そして、言い訳ができなくなります。忙しいからできない。それでしないと後で悔やむことになります。小さく始めて、違うと考えたらやめれば良いだけです。また、何かしらのオファーが来た時にやるやらないの決断ができるようになります。「小さな成功、失敗、そして決断を繰り返す」ということです。ちなみに、就活生はまだここって決めなくても大丈夫です。

私のいまやりたいことは歌手になることです。ミスチルが大好きです。「一度、お話ししてみたい」といま手紙を書いています。

最後になりますが「やったら道が拓けます。やってみたいに出会うチャンスをたくさんもっておく」ことです。

以上